

## 特長と利点

### ◆ ステンレススチール製スタイレット付 専用カテーテル

専用のカテーテルは交換用腎盂バルーンカテーテルよりもコシを持たせており、またステンレススチール製スタイレットが付属されておりますので挿入性に優れています。

### ◆ ダイレーター

滑性が良く、先端は挿入しやすい角度でテーパ加工されておりますので、ダイレーションしやすい仕様となっております。12Frのキットには、7・9・11・13Frの4本を、14Frのキットには、7・9・11・13・15Frと5本のダイレーターを装備しました。

### ◆ 超音波穿刺針

特殊な構造を有する内針によって超音波画像下において針先を写し出します。

### ◆ ガイドワイヤー

弾力性に富み、テフロンコーティングにより摩擦係数が小さいのでカテーテルをスムーズに挿入できます。

## 規格

品目コード	800 000 3920	800 000 3921
サイズ・呼称	12Fr	14Fr
アップポートレイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■造影針：外径0.71mm(22G)有効長200mmブラック</li> <li>■固定針：外径1.83mm(15G)有効長75mm</li> <li>■超音波穿刺針：外径1.26mm(18G)有効長200mmピンク</li> <li>■ガイドワイヤー：外径0.89mm (0.035") 全長800mm 3mmJ固定式 テフロンコーティング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■造影針：外径0.71mm(22G)有効長200mmブラック</li> <li>■固定針：外径1.83mm(15G)有効長75mm</li> <li>■超音波穿刺針：外径1.26mm(18G)有効長200mmピンク</li> <li>■ガイドワイヤー：外径0.89mm (0.035") 全長800mm 3mmJ固定式 テフロンコーティング</li> </ul>
ロアートレイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ダイレーター：(4本) サイズ呼称 7, 9, 11, 13Fr 有効長 203mm</li> <li>■ネフrostミーキット専用カテーテル (スタイレット付) ：サイズ呼称 12Fr ：全長 340mm ：バルーン容量 1.5mL ：デブスマーク 先端から 50 ~ 200mm まで 10mm 間隔 ：バルブ色 ホワイト ：先端開孔 側孔 2 孔</li> <li>■固定板 : No.3</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ダイレーター：(5本) サイズ呼称 7, 9, 11, 13, 15Fr 有効長 203mm</li> <li>■ネフrostミーキット専用カテーテル (スタイレット付) ：サイズ呼称 14Fr ：全長 340mm ：バルーン容量 2.0mL ：デブスマーク 先端から 50 ~ 200mm まで 10mm 間隔 ：バルブ色 グリーン ：先端開孔 側孔 2 孔</li> <li>■固定板 : No.3</li> </ul>
JANコード	4542187064568	4542187064575

包装：1キット/箱・滅菌済

- 当社は常に研究開発を行っておりますので、製品仕様の一部を変更する場合があります。予めご了承下さい。
- ご使用にあたっては、必ず電子添文をご一読下さい。

# ネフrostミーキット

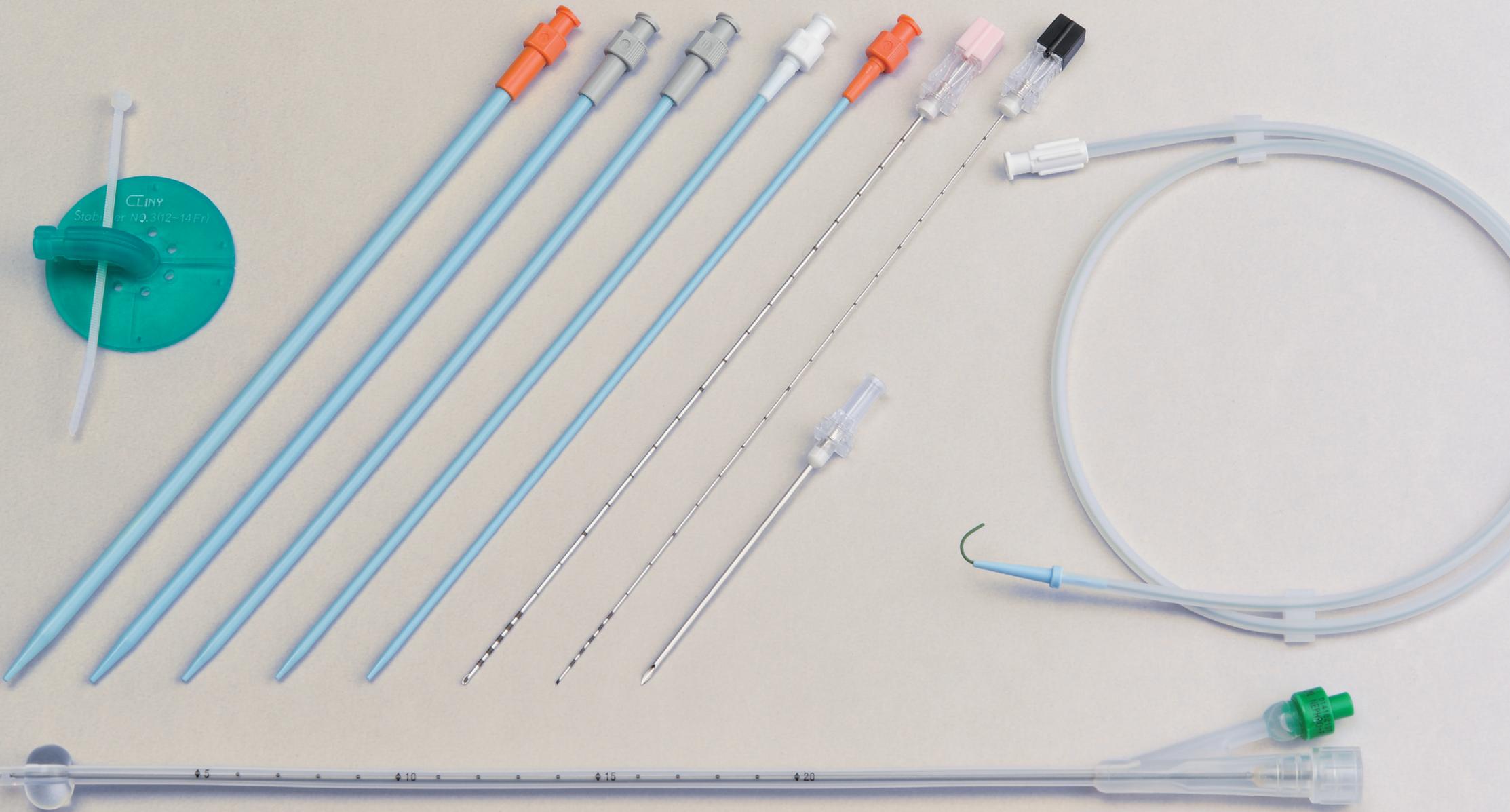
医療機器認証番号 225ACBZX00022000

## ネフrostミーキット 腎盂バルーン型



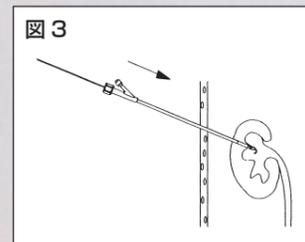
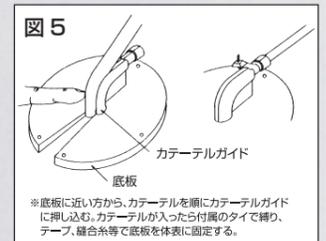
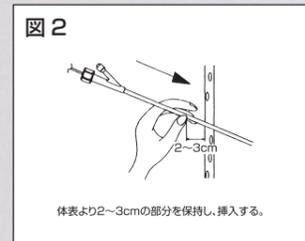
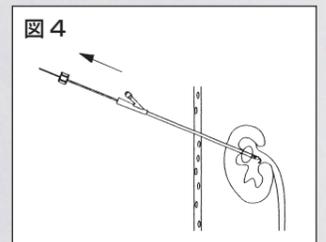
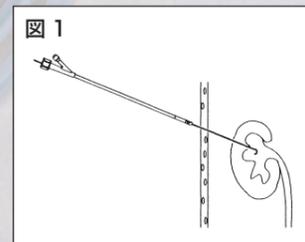
## Percutaneous Nephrostomy Kit

「ネフロストミーキット 腎盂バルーン型」は細径カテーテルから、腎盂バルーンカテーテルを留置する際の出血リスクを低減するため、腎瘻造設時に初回から腎盂バルーンカテーテルを留置できるキットです。ダイレーターによる瘻孔の拡張と、ステンレススチール製スタイレットにより、容易且つ迅速に腎盂バルーンカテーテルの留置が可能になりました。



## 使用方法

- ① 包装からトレイごと取り出し、構成通りに揃っているか確認して下さい。
- ② 患者を腹臥位とし、穿刺部位周辺を消毒して下さい。
- ③ 超音波ガイド下で、穿刺ルートを確認し、穿刺部位に局部麻酔を行い、小切開を加えます。
- ④ 必要に応じて22G造影針を穿刺し、造影剤を注入して腎盂の位置を確認します。
- ⑤ 超音波ガイド下で、18G超音波穿刺針を腎盂内まで刺入します。(その際、針のブレを防止するために、必要に応じて15G固定針を筋膜下まで刺入し、それを通して刺入します。)
- ⑥ 尿の流出を確認した後、内針を抜き、造影剤を注入します。
- ⑦ X線透視下画像を確認しながらガイドワイヤーを挿入し、ガイドワイヤー先端が腎盂内に挿入されたのを確認後、超音波穿刺針を抜きします。
- ⑧ ガイドワイヤーに沿わせて、ダイレーターを順次挿入し、腎瘻を拡張していきます。
- ⑨ ガイドワイヤーをカテーテル(スタイレット付)先端からカテーテル内腔に挿入します。この時、スタイレット内腔にガイドワイヤーがしっかりと挿入されていることを確認します。
- ⑩ ガイドワイヤーに沿わせて、カテーテル(スタイレット付)をゆっくりと挿入します(図1)。挿入の際は、(図2)のようにカテーテルを保持し、丁寧にゆっくり挿入します。
- ⑪ カテーテル(スタイレット付)の先端が、腎盂内に挿入されたことを確認後、カテーテルの留置位置を決定して下さい。(図3)
- ⑫ 一般のディスポーザブルシリンジを用いて規定容量の滅菌蒸留水をバルブから注入し、バルーンを拡張します。
- ⑬ カテーテル(スタイレット付)末端部のコネクターをゆっくりと回しながら、スタイレットをゆっくりと抜き、その後ガイドワイヤーを抜きします。(図4)
- ⑭ 固定板でカテーテルを体表に皮膚固定します。(図5)
- ⑮ カテーテルファネル部に、尿バッグを接続します。



詳細は規格欄を参照ください。